

2001年4月から2003年3月までの24カ月間のサービス種類別要介護度別サービス量の合計回数は、36,781,057回であった。最も回数が多かったのは、居宅では通介で6,334,556回を示していた。単位数は、施設型が高く、特に介護療養型医療施設が高かった。

表 I-123 サービス種類別要介護度別サービス量 (2001年4月から2003年3月)

種類	項目	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
身体	回数	213,284	832,679	578,977	400,725	388,370	427,448	2,841,483
身体	平均サービス単位数	1,789.13	2,927.16	3,711.44	5,000.79	6,555.39	8,432.98	4,618.13
身家	回数	160,422	660,297	417,950	246,219	176,410	142,768	1,804,066
身家	平均サービス単位数	2,452.61	4,183.81	5,565.99	7,623.83	9,199.86	10,757.96	5,830.32
家事	回数	934,632	1,649,535	515,712	174,548	75,049	43,928	3,393,404
家事	平均サービス単位数	1,536.87	2,120.70	2,860.32	3,159.17	2,920.96	2,635.85	2,150.09
入浴	回数	573	15,887	45,102	80,174	174,826	337,080	653,642
入浴	平均サービス単位数	3,321.42	4,452.18	4,564.81	4,749.42	4,769.64	4,961.72	4,843.10
看護	回数	67,603	363,173	345,524	287,189	347,155	519,245	1,929,889
看護	平均サービス単位数	2,134.38	3,227.03	3,728.74	4,139.49	4,375.77	5,265.62	4,169.50
訪り	回数	2,636	23,749	31,248	28,921	34,339	45,587	166,480
訪り	平均サービス単位数	2,026.61	2,229.21	2,239.76	2,256.60	2,254.95	2,255.01	2,245.11
通介	回数	1,046,888	2,284,247	1,336,101	769,932	542,710	354,678	6,334,556
通介	平均サービス単位数	2,878.52	4,653.08	5,716.92	7,820.77	7,503.96	6,841.80	5,336.01
通り	回数	442,131	1,296,517	840,143	467,387	308,938	172,139	3,527,255
通り	平均サービス単位数	3,492.01	6,031.54	7,065.03	9,506.17	9,237.05	8,471.95	6,819.65
いす	回数	53,800	291,018	343,541	312,136	317,785	255,139	1,573,419
いす	平均サービス単位数	1,645.89	1,064.08	808.53	736.09	711.47	748.92	840.79
寝台	回数	149,450	695,993	621,187	490,441	497,698	459,611	2,914,380
寝台	平均サービス単位数	1,361.42	1,406.11	1,437.79	1,448.76	1,448.12	1,444.58	1,430.99
他貸	回数	50,851	266,880	243,136	212,187	296,323	449,900	1,519,277
他貸	平均サービス単位数	511.05	407.08	437.40	528.18	647.12	723.75	572.92
短福	回数	16,396	177,090	248,853	264,754	268,247	238,329	1,213,669
短福	平均サービス単位数	4,174.03	6,679.43	7,641.43	9,756.66	11,222.83	12,393.89	9,640.45
短保	回数	4,302	55,503	81,667	79,645	74,420	59,351	354,888
短保	平均サービス単位数	4,618.89	6,391.10	7,126.60	8,486.92	9,528.97	10,778.77	8,401.02
短医	回数	490	5,865	7,856	7,677	8,530	11,958	42,376
短医	平均サービス単位数	5,042.30	6,843.71	7,400.71	8,649.43	10,124.10	11,971.30	9,360.54
指医	回数	45,356	226,430	220,075	188,768	229,067	329,614	1,239,310
指医	平均サービス単位数	758.17	761.99	767.67	768.93	780.15	792.38	775.36
指他	回数	12,029	64,728	58,215	46,348	50,804	75,322	307,446
指他	平均サービス単位数	1,026.78	1,070.49	1,085.95	1,079.47	1,063.97	1,077.28	1,073.65
認知	回数	8	54,523	69,764	42,349	16,243	5,416	188,303
認知	平均サービス単位数	15,555.38	23,043.39	23,742.08	24,228.20	24,465.63	24,831.23	23,742.49
特定	回数	8,638	28,375	19,444	14,680	14,944	10,975	97,056
特定	平均サービス単位数	6,896.29	15,867.15	17,821.15	19,801.32	21,892.58	23,810.05	17,881.19
福施	回数	15,618	290,798	455,387	557,198	873,526	896,465	3,088,992
福施	平均サービス単位数	24,261.20	23,871.16	25,538.19	26,075.58	27,992.21	28,217.41	26,943.24
保施	回数	34	327,802	519,120	546,386	611,820	405,015	2,410,177
保施	平均サービス単位数	11,077.65	24,753.50	26,481.56	28,103.54	29,531.14	30,618.14	28,083.27
医施	回数	3	61,924	100,376	146,748	340,583	531,355	1,180,989
医施	平均サービス単位数	12,033.67	30,822.95	32,834.00	34,759.41	36,609.14	37,977.29	36,370.54
合計	回数	3,225,144	9,673,013	7,099,378	5,364,412	5,647,787	5,771,323	36,781,057
合計	平均サービス単位数	2,423.13	5,203.16	7,861.97	10,701.48	13,214.84	13,373.43	8,786.71

2.要支援における特徴的なサービス種類

要支援におけるサービス量について、通所介護が 1,046,888 回で最も多く、次いで家事援助が 934,632 回、通所リハビリテーションが 442,131 回であった。

また、平均サービス単位数は、介護老人福祉施設利用（以下、福施と略す）が 24,261.20 で最も高く、次いで認知症対応型共同生活介護利用（以下、認知と略す）が 15,555.38、介護療養型医療施設利用（以下、医施と略す）が 12,033.67 であった。

表 I-124 要支援におけるサービス量の多かったサービス種類（降順）

種類	回数	平均サービス単位数
通介	1,046,888	2,878.52
家事	934,632	1,536.87
通り	442,131	3,492.01
身体	213,284	1,789.13
身家	160,422	2,452.61
寝台	149,450	1,361.42
看護	67,603	2,134.38
いす	53,800	1,645.89
他貸	50,851	511.05
指医	45,356	758.17
短福	16,396	4,174.03
福施	15,618	24,261.20
指他	12,029	1,026.78
特定	8,638	6,896.29
短保	4,302	4,618.89
訪り	2,636	2,026.61
入浴	573	3,321.42
短医	490	5,042.30
保施	34	11,077.65
認知	8	15,555.38
医施	3	12,033.67
合計	3,225,144	2,423.13

3. 要介護1における特徴的なサービス種類

要介護1におけるサービス量について、通所介護が2,284,247回で最も多く、次いで家事援助が1,649,535回、通所リハビリテーションが1,296,517回であった。

また、平均サービス単位数は、医施設が30,822.95で最も高く、次いで介護老人保健施設利用（以下、保施と略す）が24,753.50、福施設が23,871.16であった。

表 I-125 要介護1におけるサービス量の多かったサービス種類（降順）

種類	回数	平均サービス単位数
通介	2,284,247	4,653.08
家事	1,649,535	2,120.70
通り	1,296,517	6,031.54
身体	832,679	2,927.16
寝台	695,993	1,406.11
身家	660,297	4,183.81
看護	363,173	3,227.03
保施	327,802	24,753.50
いす	291,018	1,064.08
福施設	290,798	23,871.16
他貸	266,880	407.08
指医	226,430	761.99
短福	177,090	6,679.43
指他	64,728	1,070.49
医施設	61,924	30,822.95
短保	55,503	6,391.10
認知	54,523	23,043.39
特定	28,375	15,867.15
訪り	23,749	2,229.21
入浴	15,887	4,452.18
短医	5,865	6,843.71
合計	9,673,013	5,203.16

4.要介護2における特徴的なサービス種類

要介護2におけるサービス量について、通所介護が1,336,101回で最も多く、次いで通所リハビリが840,143回、特殊寝台利用が621,187回であった。

また、平均サービス単位数は、医施が32,834.00で最も高く、次いで保施が26,481.56、福施が25,538.19であった。

表 I-126 要介護2におけるサービス量の多かったサービス種類（降順）

種類	回数	平均サービス単位数
通介	1,336,101	5,716.92
通り	840,143	7,065.03
寝台	621,187	1,437.79
身体	578,977	3,711.44
保施	519,120	26,481.56
家事	515,712	2,860.32
福施	455,387	25,538.19
身家	417,950	5,565.99
看護	345,524	3,728.74
いす	343,541	808.53
短福	248,853	7,641.43
他貸	243,136	437.40
指医	220,075	767.67
医施	100,376	32,834.00
短保	81,667	7,126.60
認知	69,764	23,742.08
指他	58,215	1,085.95
入浴	45,102	4,564.81
訪り	31,248	2,239.76
特定	19,444	17,821.15
短医	7,856	7,400.71
合計	7,099,378	7861.973808

5.要介護3における特徴的なサービス種類

要介護3におけるサービス量について、通所介護が769,932回で最も多く、次いで福施が557,198回、保施が546,386回であった。

また、平均サービス単位数は、医施が34,759.41で最も高く、次いで保施が28,103.54、福施が26,075.58であった。

表 I-127 要介護3におけるサービス量の多かったサービス種類（降順）

種類	回数	平均サービス単位数
通介	769,932	7,820.77
福施	557,198	26,075.58
保施	546,386	28,103.54
寝台	490,441	1,448.76
通り	467,387	9,506.17
身体	400,725	5,000.79
いす	312,136	736.09
看護	287,189	4,139.49
短福	264,754	9,756.66
身家	246,219	7,623.83
他貸	212,187	528.18
指医	188,768	768.93
家事	174,548	3,159.17
医施	146,748	34,759.41
入浴	80,174	4,749.42
短保	79,645	8,486.92
指他	46,348	1,079.47
認知	42,349	24,228.20
訪り	28,921	2,256.60
特定	14,680	19,801.32
短医	7,677	8,649.43
合計	5,364,412	10701.47522

6.要介護4における特徴的なサービス種類

要介護4におけるサービス量について、福施が873,526回で最も多く、次いで保施が611,820回、通所介護が542,710回であった。

また、平均サービス単位数は、医施が36,609.14で最も高く、次いで保施が29,531.14、福施が27,992.21であった。

表 I-128 要介護4におけるサービス量の多かったサービス種類（降順）

種類	回数	平均サービス単位数
福施	873,526	27,992.21
保施	611,820	29,531.14
通介	542,710	7,503.96
寝台	497,698	1,448.12
身体	388,370	6,555.39
看護	347,155	4,375.77
医施	340,583	36,609.14
いす	317,785	711.47
通り	308,938	9,237.05
他貸	296,323	647.12
短福	268,247	11,222.83
指医	229,067	780.15
身家	176,410	9,199.86
入浴	174,826	4,769.64
家事	75,049	2,920.96
短保	74,420	9,528.97
指他	50,804	1,063.97
訪り	34,339	2,254.95
認知	16,243	24,465.63
特定	14,944	21,892.58
短医	8,530	10,124.10
合計	5,647,787	13214.83908

7.要介護5における特徴的なサービス種類

要介護5におけるサービス量について、福祉施設利用が896,465回で最も多く、次いで医施が531,355回、訪問看護が519,245回であった。

また、平均サービス単位数は、医施が37,977.29で最も高く、次いで保施が30,618.14、福施が28,217.41であった。

表 I-129 要介護5におけるサービス量の多かったサービス種類（降順）

種類	回数	平均サービス単位数
福施	896,465	28,217.41
医施	531,355	37,977.29
看護	519,245	5,265.62
寝台	459,611	1,444.58
他貸	449,900	723.75
身体	427,448	8,432.98
保施	405,015	30,618.14
通介	354,678	6,841.80
入浴	337,080	4,961.72
指医	329,614	792.38
いす	255,139	748.92
短福	238,329	12,393.89
通り	172,139	8,471.95
身家	142,768	10,757.96
指他	75,322	1,077.28
短保	59,351	10,778.77
訪リ	45,587	2,255.01
家事	43,928	2,635.85
短医	11,958	11,971.30
特定	10,975	23,810.05
認知	5,416	24,831.23
合計	5,771,323	13373.43114

8.要介護別サービス回数および量の特徴

要支援～要介護 3 までのサービス回数は、通所介護が最も多かった。要支援と要介護 1 では、次が家事援助で、通所リハビリテーションと続いていたが、要介護 2 では、通所介護に次いで多いのが通所リハビリで、続いて特殊寝台の利用と示された。

要介護 3 でも、最も多いのは、通所介護であったが、次いで福祉となり、さらに保施と続き、上位に老人保健施設や老人福祉施設の利用が示されるようになっていた。

要介護 4 と 5 では、最も多いのが福祉であった。要介護 4 では、次いで保施で、その次として通所介護が示されていた。

要介護 5 では、福祉施設利用に次いで多かったのは、医施で、次いで訪問看護が示され、要介護 5 の段階では、医療や看護的なサービスが必要となる状態であることがわかった。

ただし、この分析では、要介護高齢者が利用しているサービスを多い順に示しているため、複数の組み合わせは、明らかにされなかったため、第 9 章では、すべての介護サービスの組み合わせを抽出し、分析をした。

第9章 全データによる介護サービスの組み合わせ状況

1. 全月データによる介護サービスの組み合わせ数

全月データによる介護サービスの組み合わせ数は、21,637種類あった。このうち2001年4月から2003年3月までのデータにおいて、サービス提供の組み合わせ数が最も多かったものの1位から200位までを下表に示した。

最も多かったサービスは、単一の「福施」で、3,046,043名が利用していた。次に利用が多かったのと同じく単一の「通介」で、2,987,613名だった。次いで「保施」が2,253,762名と続いており、2種類以上の組み合わせで最も多かったのは8位の「家事_通介」であり、その他上位10の中で複数のサービスの組み合わせが示されたのは、10位の「通介_短福」であった。

上位20までの組み合わせをみると、12位が「通介_通り」、13位が「身体_家事」、14位が「通介_寝台」、16位が「身体_通介」、20位が「身家_家事」と示され、通所介護や家事援助を組み合わせたサービスが比較的、多かった。

この他には、「通り_寝台」、「家事_寝台」、「通介_いす」といった通所のサービスと福祉用具貸与との組み合わせで利用している要介護高齢者もそれぞれ、13万人以上、9万人以上、約9万人と利用者が多かった。

3種類以上のサービスを使っている要介護高齢者は、79,855名が利用していた29位「身体_身家_家事」、77,832名が利用していた30位「身体_家事_通介」といった組み合わせが示されていたが、次に多かったのは、44,058名が利用していた45位「身家_家事_通介」や42,193名が利用していた46位「通介_いす_寝台」といった組み合わせであった。このように3種類以上を利用している者は、比較的少なかった。

4種類以上の組み合わせは、66位の26,601名が利用していた「身体_身家_家事_通介」というものであった。次は、86位の18,862名が利用していた「通介_いす_寝台_他貸」という通所介護と福祉用具の組み合わせであった。このように3種類以上のサービスを組み合わせは少なかった。

表 I-130 サービス提供の組み合わせ数の多いもの（上位 20 位まで）

順番	人数	種類数	組み合わせ
1	3,046,043	1	福施
2	2,987,613	1	通介
3	2,253,762	1	保施
4	1,534,478	1	通り
5	1,216,451	1	家事
6	1,148,975	1	医施
7	389,066	1	身体
8	359,303	2	家事_通介
9	354,185	1	寝台
10	306,826	2	通介_短福
11	295,125	1	身家
12	271,722	2	通介_通り
13	241,942	2	身体_家事
14	202,645	2	通介_寝台
15	168,517	1	短福
16	167,615	2	身体_通介
17	162,760	1	いす
18	154,285	1	看護
19	153,239	1	認知
20	147,570	2	身家_家事

2. サービス種類の組み合わせのパターン

ここでは、サービス種類が多いものの組み合わせパターンを抽出した、これらの組み合わせパターンを持っていた要介護高齢者は、そのほとんどが要介護 4 と 5 であった。

(1) 12 種類の介護サービスの組み合わせの内容

サービスの組み合わせ種類数が最も多いものは 12 種類のサービスを組み合わせたもので利用していたのは 5 名であった。

表 I-131 12 種類のサービスの組み合わせ

順番	人数	種類数	組み合わせ
15,604	1	12	身体_身家_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_短保_指医_指他
15,605	1	12	身体_身家_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_短医_指医_指他
15,606	1	12	身体_身家_看護_通介_通り_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他_保施
15,607	1	12	身体_家事_入浴_看護_通り_いす_寝台_他貸_短保_短医_指医_指他
15,608	1	12	家事_入浴_看護_通り_いす_寝台_他貸_短福_短保_短医_指医_指他

(2) 11 種類の介護サービスの組み合わせの内容

11 種類の組み合わせは全部で 50 通りであった。最も多かった組み合わせは「身体_身家_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他」、「身体_身家_入浴_看護_通り_いす_寝

台_他貸_短福_指医_指他」、「身体_身家_家事_入浴_看護_通介_通り_いす_寝台_短福_指医」であった。ただし、これらの組み合わせでサービスを受けている要介護高齢者は、1名から4名とかなり少なかった。

表 I-132 11 種類のサービスの組み合わせ

人数	組み合わせ
4	身体_身家_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
4	身体_身家_入浴_看護_通り_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
4	身体_身家_家事_入浴_看護_通介_通り_いす_寝台_短福_指医
3	身体_身家_家事_入浴_看護_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
2	身体_身家_入浴_看護_訪り_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医
2	身体_身家_入浴_看護_訪り_通り_いす_寝台_他貸_指医_指他
2	身体_身家_入浴_看護_通介_通り_いす_寝台_他貸_指医_指他
2	身体_身家_看護_訪り_通介_通り_いす_寝台_短福_指医_指他
2	身体_身家_看護_訪り_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
2	身体_身家_看護_通り_いす_寝台_他貸_短保_指医_指他_保施
2	身体_身家_家事_入浴_看護_訪り_通介_いす_寝台_他貸_短福
2	身体_身家_家事_入浴_看護_通り_いす_寝台_他貸_指医_指他
2	身体_身家_家事_看護_通り_いす_寝台_他貸_短保_指医_指他
2	身体_看護_訪り_通介_通り_寝台_他貸_短福_短保_指医_指他
2	身家_入浴_看護_訪り_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
2	身家_家事_看護_通り_いす_寝台_他貸_短福_短保_指医_指他
1	身体_入浴_訪り_通介_いす_寝台_他貸_短福_短保_指医_指他
1	身体_入浴_看護_訪り_通介_いす_寝台_他貸_短保_指医_指他
1	身体_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_短保_短医_指医_指他
1	身体_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他_保施
1	身体_身家_入浴_看護_訪り_通介_いす_寝台_短福_指医_指他
1	身体_身家_入浴_看護_訪り_通介_いす_寝台_他貸_指医_指他
1	身体_身家_入浴_看護_訪り_通介_いす_寝台_他貸_指医_医施
1	身体_身家_入浴_看護_訪り_いす_寝台_他貸_短保_指医_指他
1	身体_身家_入浴_看護_通り_いす_寝台_他貸_短保_指医_保施
1	身体_身家_入浴_看護_通り_いす_寝台_他貸_短保_指医_指他
1	身体_身家_看護_訪り_通り_いす_寝台_他貸_短保_指医_指他
1	身体_身家_看護_通介_通り_いす_他貸_短保_指医_指他_保施
1	身体_身家_看護_通介_通り_いす_寝台_他貸_短保_指医_医施
1	身体_身家_看護_通介_通り_いす_寝台_他貸_短福_短医_指医
1	身体_身家_看護_通介_通り_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
1	身体_身家_看護_通介_通り_いす_寝台_他貸_短医_指医_指他
1	身体_身家_家事_入浴_看護_訪り_通介_寝台_他貸_指医_指他
1	身体_身家_家事_入浴_看護_訪り_寝台_他貸_短保_指医_指他
1	身体_身家_家事_入浴_看護_訪り_寝台_他貸_短福_指医_指他
1	身体_身家_家事_入浴_看護_通介_通り_いす_寝台_他貸_指医
1	身体_身家_家事_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医
1	身体_身家_家事_通り_いす_寝台_他貸_短福_短保_指医_指他
1	身体_身家_家事_看護_訪り_通介_通り_他貸_短福_指医_指他
1	身体_身家_家事_看護_通介_通り_いす_他貸_短福_指医_指他
1	身体_身家_家事_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
1	身体_身家_家事_看護_通り_寝台_他貸_短福_短医_指医_指他
1	身体_看護_通介_通り_いす_寝台_他貸_短保_指医_指他_保施
1	身体_看護_通介_通り_いす_寝台_他貸_短福_短保_指医_指他

1	身体_看護_通介_通りいす_寝台_他貸_短福_短医_指医_指他
1	身体_家事_入浴_看護_訪り_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医
1	身体_家事_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
1	身体_家事_入浴_看護_通りいす_寝台_他貸_短福_指医_指他
1	身体_家事_看護_訪り_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
1	家事_入浴_看護_通りいす_寝台_他貸_短福_短保_指医_指他

(3) 10 種類の介護サービスの組み合わせの内容

10 種類の組み合わせは全部で 242 通りであった。最も多かった組み合わせは「身体_身家_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他」の 31 名であった。次いで多かった組み合わせは「身体_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他」で 28 名、次に「身体_身家_看護_通り_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他」の組み合わせで 22 名と続いていた。

表 I-133 10 種類のサービスの組み合わせ（上位 20）

人数	組み合わせ
31	身体_身家_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
28	身体_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
22	身体_身家_看護_通りいす_寝台_他貸_短福_指医_指他
21	身体_看護_通介_通りいす_寝台_他貸_短福_指医_指他
18	身体_身家_入浴_看護_訪りいす_寝台_他貸_指医_指他
16	身体_身家_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_指医_指他
15	身体_身家_家事_入浴_看護_いす_寝台_他貸_指医_指他
15	身体_看護_訪り_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
13	身体_身家_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医
13	身体_身家_家事_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医
12	身体_身家_家事_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_指医
12	身体_家事_入浴_看護_通介_通りいす_寝台_短福_指医
11	身体_身家_入浴_看護_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
10	身体_入浴_看護_通りいす_寝台_他貸_短保_指医_指他
10	身体_身家_看護_通介_通りいす_寝台_他貸_短福_指医
10	身体_家事_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_指医_指他
10	身体_家事_入浴_看護_通りいす_寝台_他貸_短福_指医
9	身体_身家_入浴_看護_通りいす_寝台_他貸_指医_指他
9	身体_身家_看護_訪り_通介_通り_他貸_短福_指医_指他
9	身体_身家_家事_看護_通りいす_寝台_他貸_短福_指医
9	身体_家事_看護_通りいす_寝台_他貸_短福_指医_指他

(4) 9種類の介護サービスの組み合わせの内容

9種類の組み合わせは全部で905通りであった。最も多かった組み合わせは「身体_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他」の141名あった。次いで多かった組み合わせは「身体_身家_入浴_看護_いす_寝台_他貸_指医_指他」で120名、次に「身体_入浴_看護_訪り_いす_寝台_他貸_指医_指他」の組み合わせで107名と続いていた。

表 I-134 9種類のサービスの組み合わせ（上位20）

人数	組み合わせ
141	身体_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
120	身体_身家_入浴_看護_いす_寝台_他貸_指医_指他
107	身体_入浴_看護_訪り_いす_寝台_他貸_指医_指他
100	身体_入浴_看護_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
92	身体_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医
89	身体_身家_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_指医
88	身体_身家_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医
70	身体_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_指医_指他
68	身体_入浴_看護_訪り_いす_寝台_他貸_短福_指医
67	身体_身家_看護_通介_いす_寝台_他貸_指医_指他
65	身体_身家_看護_通り_いす_寝台_他貸_短保_指医
65	身体_身家_家事_看護_通介_いす_寝台_指医_指他
60	身体_身家_入浴_看護_訪り_いす_寝台_他貸_指医
60	身体_看護_通介_通り_いす_寝台_他貸_短福_指医
56	身体_看護_通り_いす_寝台_他貸_短保_指医_指他
55	身体_身家_家事_入浴_看護_いす_寝台_他貸_指医
52	身体_身家_入浴_看護_いす_寝台_他貸_短福_指医
48	身体_身家_看護_通介_いす_寝台_短福_指医_指他
46	身体_入浴_看護_通り_いす_寝台_他貸_指医_指他
46	身体_身家_入浴_看護_寝台_他貸_短福_指医_指他
46	身体_看護_訪り_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医
45	身体_身家_看護_通り_いす_寝台_他貸_指医_指他

(5) 8種類の介護サービスの組み合わせの内容

8種類の組み合わせは全部で2,275通りであった。最も多かった組み合わせは「身体_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医」の758名であった。次いで多かった組み合わせが「身体_入浴_看護_いす_寝台_他貸_指医_指他」で642名、次に「身体_入浴_看護_いす_寝台_他貸_短福_指医」の組み合わせで542名と続いていた。

表 I-135 8種類のサービスの組み合わせ（上位20）

人数	組み合わせ
758	身体_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医
642	身体_入浴_看護_いす_寝台_他貸_指医_指他
542	身体_入浴_看護_いす_寝台_他貸_短福_指医
442	身体_身家_入浴_看護_いす_寝台_他貸_指医
317	身体_看護_通介_いす_寝台_他貸_指医_指他
280	身体_身家_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福

278	身体_看護_通り_いす_寝台_他貸_短保_指医
269	看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医_指他
260	身体_入浴_看護_通介_いす_寝台_他貸_指医
244	身体_入浴_看護_訪り_いす_寝台_他貸_指医
238	身体_身家_看護_通介_いす_寝台_他貸_指医
208	身家_入浴_看護_いす_寝台_他貸_指医_指他
201	身体_看護_通介_通り_いす_寝台_他貸_指医
195	身体_身家_入浴_看護_寝台_他貸_指医_指他
158	身体_身家_看護_通り_いす_寝台_他貸_指医
155	身体_看護_通介_通り_いす_寝台_他貸_短福
152	身体_身家_家事_看護_いす_寝台_他貸_指医
152	身体_看護_通り_いす_寝台_他貸_指医_指他
148	身体_入浴_看護_いす_寝台_他貸_短保_指医
147	身体_身家_入浴_看護_寝台_他貸_短福_指医
137	身体_入浴_看護_通り_いす_寝台_他貸_指医

(6) 7種類の介護サービスの組み合わせの内容

7種類の組み合わせは全部で4056通りであった。最も多かった組み合わせは「身体_入浴_看護_いす_寝台_他貸_指医」の2,695名であった。次いで多かった組み合わせが「身体_看護_通介_いす_寝台_他貸_指医」で1,718名、次に「身体_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福」の組み合わせで1,627名と続いていた。

表 I-136 7種類のサービスの組み合わせ（上位20）

人数	組み合わせ
2,695	身体_入浴_看護_いす_寝台_他貸_指医
1,718	身体_看護_通介_いす_寝台_他貸_指医
1,627	身体_看護_通介_いす_寝台_他貸_短福
1,213	看護_通介_いす_寝台_他貸_短福_指医
1,111	身体_入浴_看護_寝台_他貸_指医_指他
1,008	身体_看護_通介_寝台_他貸_短福_指医
973	身体_入浴_看護_寝台_他貸_短福_指医
907	身体_入浴_看護_いす_寝台_他貸_短福
847	身体_身家_入浴_看護_いす_寝台_他貸
836	身体_身家_入浴_看護_寝台_他貸_指医
832	身体_看護_通り_いす_寝台_他貸_指医
826	入浴_看護_いす_寝台_他貸_指医_指他
690	身体_身家_看護_通介_いす_寝台_他貸
639	身体_看護_通り_いす_寝台_他貸_短保
616	身家_入浴_看護_いす_寝台_他貸_指医
572	入浴_看護_いす_寝台_他貸_短福_指医
503	身体_身家_通介_いす_寝台_他貸_短福
460	身体_看護_通介_いす_寝台_短福_指医
450	身体_身家_家事_看護_いす_寝台_他貸
450	看護_通り_いす_寝台_他貸_短保_指医
445	身体_身家_看護_いす_寝台_他貸_指医

第10章 わが国における全要介護高齢者の状態像の特徴および類型化の考え方

1. わが国の要介護高齢者の状態像における悪化の特徴

要介護状態となっている高齢者は、まず左下肢か右下肢に麻痺がある者、あるいは、こういった障害によって膝関節に拘縮があるという身体的な特徴があるものが運動機能に軽度な障害がある要介護高齢者であると予想される。これら的高齢者は、「つめ切り」ができず、金銭の管理ができない。さらに、洗身ができない割合と毎日の日課を理解できない割合、短期記憶に障害をきたしている割合はほぼ同じである。

歩行ができない割合と今の季節を理解できない割合もほぼ同じである。ひどい物忘れが日常的に起こっている割合と薬の内服と立ち上がりができない割合も同じである。更に、ズボン等の着脱ができないと排便ができないは同じ程度を示している。排尿ができないと皮膚疾患がある割合もほぼ同じである。

上衣の着脱と洗髪ができない割合もほぼ同じであった。場所の理解ができないと生年月日の記憶ができない割合、両足での立位や起き上がりができない割合も同じである。

歯磨きができない、移乗が出来ないという割合もほぼ同じであった。麻痺や拘縮が上肢や足関節、肘関節にも広がることで、寝返りもできなくなる。このような障害が見られるようになるのと同じ割合で昼夜逆転が起こる。

昼夜逆転が起こる割合は、12.03%で介護に抵抗する、感情が不安定になるといった精神障害に類する病的な症状があるという10.64%との間には、若干の差がある。

10%以下の発生率を示している障害の内容のほとんどは、大声を出す、暴言暴行、幻視幻聴、被害的な言動や行為、常時の徘徊といった問題行動か、酸素療法、透析、気管切開、モニター測定、中心静脈栄養、ストーマの処置、レスピレーター等の医療処置である。

これらのことから、徐々に機能低下を来たしてくると考えられる。

表 I-137 要介護高齢者における障害ありの割合（降順）

障害の内容	人数	割合(%)
麻痺（左下）	14,370,497	64.28
麻痺（右下）	14,323,553	64.07
つめ切り	12,483,674	55.84
金銭の管理	10,181,539	45.54
拘縮（膝関節）	9,180,154	41.06
片足での立位	8,595,618	38.45
洗身	7,959,096	35.6
毎日の日課を理解	7,743,701	34.64
短期記憶	7,423,395	33.2
歩行	6,247,218	27.94
今の季節を理解	6,194,670	27.71
ひどい物忘れ	6,133,583	27.43
ズボン等の着脱	5,801,227	25.95

排便	5,613,467	25.11
皮膚疾患	5,577,270	24.95
拘縮（肩関節）	5,563,885	24.89
排尿	5,475,187	24.49
薬の内服	4,984,772	22.3
立ち上がり	4,974,993	22.25
上衣の着脱	4,814,547	21.53
洗髪	4,696,481	21.01
場所の理解	4,626,508	20.69
両足での立位	4,564,951	20.42
起き上がり	4,521,606	20.22
麻痺（右上）	4,418,412	19.76
麻痺（左上）	4,404,592	19.7
生年月日	4,264,665	19.08
口腔清潔	4,086,552	18.28
移乗	4,034,258	18.04
拘縮（その他）	3,890,940	17.4
洗顔	3,795,527	16.98
拘縮（股関節）	3,778,533	16.9
麻痺（その他）	3,353,221	15
拘縮（足関節）	3,225,094	14.43
同じ話をする	3,147,969	14.08
拘縮（肘関節）	3,112,684	13.92
寝返り	3,104,122	13.88
昼夜逆転	2,689,710	12.03
介護に抵抗する	2,378,645	10.64
感情が不安定	2,177,450	9.74
疼痛の看護	2,154,758	9.64
食事摂取	1,984,688	8.88
自分の名前をいう	1,728,679	7.73
大声を出す	1,476,204	6.6
暴言暴行	1,414,214	6.33
幻視幻聴	1,324,171	5.92
被害的な言動や行為の有	1,288,208	5.76
指示への反応	1,259,937	5.64
常時の徘徊	1,233,957	5.52
じょく創	1,198,647	5.36
視力	1,138,544	5.09
意思の伝達	1,064,211	4.76
点滴の管理	1,012,082	4.53
座位保持	978,097	4.37
作話	910,095	4.07
落ち着きがない	905,812	4.05
外出して戻れない	738,925	3.31
一人で出たがる	732,280	3.28

カテーテル	719,583	3.22
聴力	700,240	3.13
えん下	671,430	3
じょく創の処置	654,348	2.93
経管栄養	651,658	2.91
不潔行為	627,645	2.81
収集癖がある	626,085	2.8
火の始末	619,283	2.77
酸素療法	445,494	1.99
透析	242,420	1.08
異食行動	237,264	1.06
物や衣類を壊す	230,089	1.03
気管切開	107,793	0.48
モニター測定	106,737	0.48
中心静脈栄養	106,035	0.47
ストーマの処置	94,855	0.42
レスピレーター	20,759	0.09

2.わが国における全要介護高齢者の状態像の特徴および類型化の考え方

22,356,876 名の全要介護高齢者における要介護認定基準時間の平均値は、60.32 分であった。また、中間評価項目得点は、第 1 群の得点から第 7 群の得点まで、順に 74.91 点、63.34 点、43.95 点、79.82 点、58.12 点、80.36 点、93.04 点を示していた。

この得点は高いほうが自立度は高いことが示されていることから、わが国の要介護高齢者においては、問題行動の得点は、93.04 点と高く、問題行動が発現している高齢者は少ないことが示された。またコミュニケーション等関連の得点も 80.36 点、特別な介護等関連も 79.82 点と高いことから、わが国の要介護高齢者は、全般的に多くの介護を必要とする集団とはいえないことが明らかにされた。特徴としては、身の回りの世話等関連が 58.12 点、複雑な動作等関連が 43.95 点であることから、日常生活動作において若干の支援を必要とする高齢者の状態像を示しているものと推察される。

また、旧認定データの状態像の組み合わせに関する分析を行った結果、16,604,626 件のうち 1.2 号被保険者以外、不正な二次判定を除く、状態情報の組み合わせをカウントした結果、すべての組み合わせ数は、13,951,684 通りであった。この組み合わせの中で、最も多かった組み合わせは、全ての状態情報が「1」の場合、すなわち自立していた場合であり、44,069 名がこのすべて「1」の組み合わせと示されていた。

次に多かった組み合わせは、居室の掃除だけが「2」と回答された組み合わせの場合であり、10,681 名が示された。

更に、当該組み合わせに 2 名以上、存在した組み合わせだけを抽出した結果、2 人以上が存在した組み合わせは、753,442 であった。状態情報の組み合わせが軽度以外は、多様であり、高齢者の類型化を行うためには、これら多次元のデータの縮約の検討が必要であることが示された。なお、この縮約に関する方法論は、本研究の第 V 部で検討した。

表 I-138 中間評価項目の第1群～7群の内容

種類	内容
第1群中間評価項目	麻痺・拘縮関連
第2群中間評価項目	移動等関連
第3群中間評価項目	複雑な動作等関連
第4群中間評価項目	特別な介護等関連
第5群中間評価項目	身の回りの世話等関連
第6群中間評価項目	コミュニケーション等関連
第7群中間評価項目	問題行動関連

表 I-139 全要介護高齢者における要介護認定基準時間と中間評価項目得点の平均値

中間評価項目得点の内容	得点	標準偏差
麻痺・拘縮関連	74.91	26.48
移動等関連	63.34	31.89
複雑な動作等関連	43.95	28.88
特別な介護等関連	79.82	25.49
身の回りの世話等関連	58.12	33.38
コミュニケーション等関連	80.36	24.93
問題行動関連	93.04	11.61

3.全要介護高齢者が受けている介護サービスの特徴

わが国において、介護サービスを受けている要介護高齢者の介護サービス利用の特徴は、要支援～要介護3までの者が多く受けている通所介護であった。

要支援と要介護1では、次が家事援助で、通所リハビリテーションと続いており、居宅で生活を継続するためのサービスとして受けていると予想された。

要介護2では、通所介護の次に多いのが通所リハビリで、家事援助よりも特殊寝台の利用が多く示された。

要介護3でも、最も多く利用しているサービスが、通所介護であったが、次いで介護老人福祉施設や介護老人保健施設の利用が示されるようになり、要介護3で居宅での生活から施設へと移動しているものと推察された。

要介護4と5では、最も多いのが老人福祉施設における入所サービスの受給であり、この段階では、かなりの要介護高齢者が施設への入所をしていると予想されるが、通所介護の利用もあることから、要介護4の状態でも居宅で生活していこうとした場合には、通所サービスを受けられるまでは、受けつけようとする傾向があると考えられた。

要介護5では、福祉施設利用に次いで多かったのは、療養型の医療施設であった。次いで訪問看護が示され、要介護5の段階では、要介護4の状態とは異なり、かなりの医療や看護的なサービスが必要となる状態であると考えられた。

さらに、要介護高齢者の受けているサービスのすべての組み合わせについて、明らかにした結果、組み合わせ数は、21,637種類あった。2001年4月から2003年3月までのデータにおいて、サービス提供の組み合わせ数が最も多かったのは、「福施」で、3,046,043名が利用していた。

次に利用が多かったのは、同じく単一の「通介」で、2,987,613名だった。「保施」も多く、2,253,762名と続いていた。上位は、1種類のサービスを受けている者が多く、要介護高齢者は、サービスの種類としては、1種類のサービス利用が多いと示された。

2種類以上の組み合わせで最も多かったのは、8位の「家事_通介」であり、比較的、軽度の高齢者の利用が多いと予想された。10位の「通介_短福」については、「家事_通介」の利用者よりも要介護度は高いことが予想された。2種類の組み合わせとしては、「通介_通り」、「身体_家事」、「通介_寝台」、「身体_通介」、「身家_家事」が多い組み合わせとして示され、通所介護や家事援助は、「通り_寝台」、「家事_寝台」、「通介_いす」といった通所のサービスと福祉用具貸与との組み合わせで利用している要介護高齢者が10万人単位で存在しており、こういった組み合わせでの利用が特徴となっていた。

したがって、3種類以上のサービスを使っている要介護高齢者は、79,855名が利用していた「身体_身家_家事」、77,832名が利用していた「身体_家事_通介」は、「身家_家事_通介」や42,193名、「通介_いす_寝台」等は、比較的用户が多い組み合わせといえるが、3種類以上のサービスの組み合わせを利用している者は、単一、2種類のものに比較するとかなり少なかった。

4種類以上の組み合わせは、66位の26,601名が利用していた「身体_身家_家事_通介」というものであった。次は、86位の18,862名が利用していた「通介_いす_寝台_他貸」という通所介護と福祉用具の組み合わせであった。

したがって、来年度、類型化された要介護高齢者における介護サービス利用の効果を明らかにするには、単一の利用と一定の利用者数が存在する介護サービスの組み合わせを検討することが重要と考えられた。

第II部 わが国における睡眠障害と身体的精神的愁訴との関連性についての疫学的検討

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）

分担研究報告書

「介護サービスと類型化された要介護状態像との相互関連に関する研究」
わが国における睡眠障害と身体的精神的愁訴との関連性についての疫学的検討

分担研究者 兼板 佳孝 日本大学医学部社会医学講座公衆衛生学部門

研究要旨：本研究の第I部に示されたように、わが国の要介護高齢者の問題行動の発現は、1割程度と考えられるが、これらの多様な問題行動の発生機序は、未だ明確にされていないわけではない。しかし、本研究の結果からは、睡眠障害のひとつである「昼夜逆転」が起こる割合は、12.03%であり、この割合は、「介護に抵抗する、感情が不安定になる」といった精神障害に類する病的な症状が発現する症状としても考えられる。発生率が10%以下の問題行動は、大声を出す、暴言暴行、幻視幻聴、被害的な言動や行為、常時の徘徊といった内容であり、精神障害による症状と似ているが昼夜逆転は、睡眠障害のひとつの症状として考えられる高齢期に特徴的な中途覚醒、早朝覚醒、不眠症の重篤な症状とも考えられる。

そこで、これまで十分に明らかにされてこなかった日本人の睡眠障害と身体的、精神的愁訴との関連性について、国民を代表する平成12年厚生労働省保健福祉動向調査のデータを用いてこれに関する解析を行った。

この結果、高齢者は中途覚醒、早朝覚醒、不眠症が他の年齢層に比較して高く、個々の身体的、精神的愁訴が独立してそれぞれの睡眠障害と促進的関連性を有することが示されたことから、これらの愁訴に関する情報を認定情報で入手することによって、問題行動の発現のメルクマールとできる可能性が示された。